

2023年春

東洋大学 国際学部 国際地域学科
地域総合専攻(イブニング)

学部別懇談会 資料



はじめに

- 2022年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止策を図りながら、対面授業を実施(一部の学生に対し、オンライン等での対応も)
- 留学の再開により、渡航する学生は増えてきた
- クラス担任制により、何かあれば相談できる体制を構築
(1年次は必修科目「入門ゼミナール」担当教員が担任)
- 教務課、学生サポート室、ラーニングサポートセンター、就職キャリア支援課、国際センターなど各種相談窓口を設置
- 感染症の拡大状況を見極めながら、実習系科目の実施方法を調整
(オンライン⇔対面) →学科HPをご参照ください

国際学部国際地域学科の略史

- 1997年 群馬県板倉キャンパスに
国際地域学部 国際地域学科を開設
- 2009年 白山第2キャンパスに移転
- 2010年 国際地域専攻(昼)と地域総合専攻(イブニングコース)
の二専攻体制に
- 2013年 白山キャンパスに移転
- 2017年 国際学部 国際地域学科へ改組

- 2012年 文部科学省 「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」
に採択
- 2014年 文部科学省 「スーパーグローバル大学創成支援 タイプB」
に採択

東洋大学の国際化をリード

イブニングコースと建学の精神

教育理念

本質に迫って深く考える

主体的に社会の課題に

取り組む

「余資なく、優暇なき者」のために

「社会教育」と「開かれた大学」を

目指す(井上円了)



国際地域学科の教員構成と特徴

- 2023年4月現在、国際地域学科教員は**27**名
- 国内外各地をフィールドに研究(アジア・欧米・アフリカ・中米)
- 文系／理系 両方の教員
- 国際機関や(国内)公的機関、民間企業での実務経験のある教員
- 英語、その他の外国語に堪能

国際学部

- 学部長： 荒巻俊也

環境マネジメント、環境システム解析

国際地域学科

- 学科長： 藪長 千乃
(国際地域専攻 専攻長)
– 福祉政策

地域総合専攻(イブニングコース)

- 専攻長： 沼尾 波子
– 地方財政、地域経済

国際地域学科の学生数

- 国際地域専攻(昼) **887**名(2023年4月現在)
- 地域総合専攻(イブニング) **336**名
- うち留学生数 **71**名(国際地域学科全体)
- 2023年度新入生
 - 国際地域専攻 **225**名
 - 地域総合専攻 **82**名

地域総合専攻(イブニングコース)の学び

6限:18:15~19:45

7限:19:55~21:25 が中心

- 国際地域専攻(昼間)と同一の専任教員および非常勤講師が講義等を担当
- 国際地域専攻、グローバル・イノベーション学科、他学部の講義も、一部受講可能
- 卒業単位数124
- 卒業すると「学士(国際地域学)」の称号

地域総合専攻の目的

地域に対する俯瞰的な視点のもとに「地域づくり」を国内外で展開し、開発支援やビジネスなどを通して日本を含むアジア地域の発展に貢献していくことができる、より実践的な力を持つ人材の養成を目的とする

カリキュラム・ポリシー

- **幅広い知識と専門性(4つの専門領域)**
イブニングの時間帯の履修のみで卒業要件が満たせるよう科目を配置
- **英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力の向上**
英語で実施する専門科目、海外研修など
- **現場・実務体験の重視**
フィールドスタディ、インターンシップなど

広範な学問領域を4つの専門領域に分類した体系的な学び

4つの領域

国際関係・開発政策領域:

国際協力論、国際関係論、市民社会論、政治学、国際政治学、ミクロ・マクロ経済学、開発経済論、経済地理学、農村地域開発論など

比較文化領域:

文化人類学、開発と異文化理解、宗教と社会、ジェンダー論、比較芸術論、アジア・中東・米州・アフリカ地域研究、など

コミュニティ・地域政策領域:

地域社会学、コミュニティ開発、地方自治論、公共経営論、NGO・NPO論、社会保障論、社会政策論、まちづくり論、地域デザイン演習など

環境・情報・インフラ領域:

環境マネジメント、国際環境計画、国際インフラ論、国土計画・地域計画、都市計画、交通まちづくり、自然災害と防災、災害と復興、情報マネジメントなど

それぞれの専門性をもとに、行政や公的機関、企業、NGOなど、グローバルな視点をもって活躍する人財へ

語学力を高める

- 外国語、とくに英語に力を入れている
 - TOEIC , TOEFL 試験の定期的な実施、受験料補助
- 英語による専門科目開講
- 学部の海外語学研修
- 東洋大学の交換留学(協定校への留学制度)
- 第二外国語の履修
中国語、ハンガール、フランス語、ドイツ語

国内外の地域で学ぶ

- 語学実習・専門研修・フィールドスタディの実施
 - 短期海外研修: タイ、イタリア、ベトナム、中国、など
 - ゼミによる国内外の現地研修: 年間約20件超
- 国内外でのインターンシップ
 - 国連、国際的に活動するNGO、民間企業、市役所、などで職業体験

4年間の流れ

1年	春学期	ガイダンス 少人数の入門ゼミナール(平均20人) 語学などの必修科目
	3Q	
	4Q	
2年	春学期	専門的な学びや実践的な活動(プロジェクトスタディーズやインターンシップ)、海外留学などが本格化
	秋学期	
3~4年		専門科目の履修、実践的な活動の深化、海外留学。 プロジェクトゼミナール インターンシップ、就職活動
4年	春学期	卒業研究(専門研究Ⅰ)(希望者) / 留学
	秋学期	卒業論文執筆(専門研究Ⅱ)完成・提出・発表 / 留学 卒業へ!

国際地域学科(地域総合専攻)原級者数

3月卒業

(年度)

	2018	2019	2020	2021	2022
卒業判定対象者	107	110	55	82	84
卒業生数	88	92	44	66	71
卒業率	82.2%	83.6%	80.0%	80.5%	84.5%
原級者数	19	18	11	16	13
原級率	17.8%	16.4%	20.0%	19.5%	15.5%

原級 = 留年

3月卒業は
約8割

9月卒業

(年度)

	2018	2019	2020	2021	2022
卒業判定対象者	15	18	20	17	10
卒業生数	2	6	8	7	2
卒業率	13.3%	33.3%	40.0%	41.2%	20.0%
原級者数	13	12	12	10	8
原級率	86.7%	66.7%	60.0%	58.8%	52.2%

9月卒業を選
ぶ人も

※2019年度までは国際地域学部国際地域学科の卒業生数、
2020年度以降は国際学部国際地域学科地域総合専攻の卒業生数を基に算出。
※2020年度9月卒業については、国際地域学部国際地域学科地域総合専攻の
卒業生数を基に算出。

就職内定率

学部／学科	内定率		
	2022年 3月卒業	2021年 3月卒業	2020年 3月卒業
国際学部 (第1部・イブニングコース)	97.3%	96.5%	98.0%(※)
地域総合専攻(※)	98.1%	96.9%	97.3%(※)
東洋大学全体 (第1部・第2部/イブニングコース)	95.4%	96.3%	96.8%
文学部(第2部)	91.1%	94.0%	95.1%
経済学部(第2部)	92.1%	93.5%	93.3%
経営学部(第2部)	95.5%	97.5%	97.3%
法学部(第2部)	93.8%	97.6%	98.8%
社会学部(第2部)	93.5%	93.0%	92.7%

- 「英語」を中心に学力はめざましく向上。
- しかし、英語をいかにキャリア形成に生かすかには関心が薄い。
- 将来の目標もあいまい。

※2020年3月卒業者までは、国際学部の卒業生がいないため、国際地域学部（国際地域学科のみ）の卒業生数で算出。

海外への留学

イブニングコース

- 長期留学
 - 2018年度：9名
 - 2019年度：6名
 - 2022年度：6名
 - 2023年度：4名（予定）
- 短期研修派遣
（学部主催）
 - 2018年度：10名
 - 2019年度：13名
 - 2022年度：4名

（参考）昼

- 長期留学
 - 2018年度：59名
 - 2019年度：45名
 - 2022年度：69名
 - 2023年度：50名（予定）
- 短期研修派遣（学部主催）
 - 2018年度：65名
 - 2019年度：107名
 - 2022年度：41名

特別長期インターンシップ制度

- 休学せずに長期(3ヶ月～半年)のインターンシップを実施。活動内容により単位を認定。
- 指定プログラム
 - ワシントンセンター
ワシントンDCにおける国際機関等でのインターン

海外への留学

- 長期留学(2018年度59名、2019年度45名、2022年度69名、2023年度50名(予定)) (いずれも学科全体数)

米国の協定校へ交換留学を行う場合のスケジュール例

	1年		2年		3年		4年	
	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
Case A (2年次に出発)		↑ 申込		留学中			就活・卒論	
Case B (3年次に出発)				↑ 申込		留学中	就活・卒論	

- 申込みの時点で、一定水準の英語能力が求められることが多い
- 計画的な語学学習および留学準備を進めることが大切
- 語学の成績によって得られる奨学金の額が異なる

国際地域学研修(タイ研修)



SFS能登



第3種郵便物認可 北 國 新



報恩講の供え物の飾り付けを手伝う学生
—志賀町鶴野屋

志賀・鶴野屋の安成寺

志賀町鶴野屋の浄土真宗東本願寺派安成寺の「報恩講」に助っ人として参加する東洋大の学生15人が21日、同寺に到着した。25日まで毎日、門徒に振る舞う精進料理の下ごしらえや配膳を手伝う。二十数世帯の集落は過疎と高齢化が進み、住民だけでは仏事の運営がままならなくなる中、学生が参加するのは4年目となり、信心深い能登の風土が培ってきた仏事をつなぐ大役を担っている。

東洋大生が到着 料理や配膳手助け

安成寺の報恩講は500年以上の歴史を持ち、21日から七屋夜にわたって執り行われることから「お七屋夜さん」と呼ばれる。今回は東洋大国際地域学部2、3年生が参加し、21日昼に寺に入った学生は早速、本堂の掃除や五色幕の設置、仏前に供えるもちの飾り付けを手伝った。22日以降は早朝から寺の台所で油揚げの煮物や金糸瓜の酢の物など精進料理の調理や盛り付けに当たる。東洋大は能登をキャンパスに見立てた「能登ゼミ」の一環で、2013年から鶴野屋の「大学の森」で森林保全に取り組んでいる。学生は大学の森活動で住民と交流を深める中で、人口減少により年々維持が難しくなっている報恩講を手助けすることになった。

学生の大半は東京やその近郊で生まれ育ったといいますが、3年生の萬匠太郎さん(21)は「地域のよりどころとなる行事が地元の方で脈々と受け継がれてきたことに感銘を受けた」と目を輝かせた。小川未豊さん(21)は「報恩講がこれからも続いていくため、私たちが支えになることができればうれしい」と話した。安成寺住職の鶴之家元彰さん(65)は「学生のおかげで今年も報恩講を行うことができる」と感謝した。

報恩講 学生が支え

最後に

- 成績評価
 - 留学や奨学金の可否
 - 就職活動の際に、成績をみる企業も
- 情報収集と連絡事項の確認
 - Webサイト(ToyoNet-ACE等)
 - 東洋大学公式アプリ(TOYO-info)
 - メール
 - 掲示板